

2025年12月26日

海ノ民話学 共同研究会企画 「海ノ民話のまちのナラティブと未来への貢献」

一般社団法人 日本海洋文化総合研究所

1. 趣旨

海と共に生きてきたまちには、海からの自然の恵みや他地域との交流・交易をとおして得た食や文化や富、そして災害の経験などといった災禍をもとに生み出された独特なナラティブがある。そして、民衆がそれを語り伝えてくる中で紡ぎ出された民話がある。

他方、未曾有の人口減少が進む日本において、とくに沿岸地域は衰退が大きく進んでいる。そのため、地方創生のあり方についても根本的な方策が求められる。

そんな中で海ノ民話のまちプロジェクトは、全国各地に伝わる海ノ民話を対象とし、地域側の能動的な動きに呼応する形で、アニメーションというアート表現を用いて海ノ民話を地域の次世代をはじめ、広く多くの人々に伝え、様々な活用を展開する仕掛けを行っている。

そこで民俗学をはじめ、考古学や遺産学、地質学、地域計画学や観光学といった視点から、海ノ民話が現代を生きる私たちに何を伝えようとしているのか、そして地域の未来に対しどのように位置づけていくことが出来るのかについて、その可能性や課題について検討する。

2. 共同研究会とは

複数の熱意をもつ専門家が集まって、専門の枠にとらわれず、自由意志によって自由な討議の中で協力しながら、一人の専門家では行えない研究を行うこと。

- ① 分野横断的で、熱意ある研究者が自発的に集う場
- ② 自由な討議と協働の中で、個人では到達できない新しい知を生む仕組み
- ③ 講座制などの縦割りを超えて、組織そのものを変える運営理念
- ④ 知の分断（コンパートメンタリズム）を防ぎ、多様な視点を統合する方法
- ⑤ 社会・文化・国家の未来をデザインするための知的プラットフォーム

(1) 桑原武夫の「共同研究」と運営組織論

彼（ウィーナー=引用者注）の理想とするのは、「一つの部門の専門家でありながら、同時に隣の部門にも透徹した理解のある科学者たちのチーム」、……相互に自由に協力し合いたいという「精神的欲求によって結集する」グループである。……他の領域の仕事がわかり、少なくともわかるという熱意を持つ専門家たちの集まりが必要なのであります。私たちもこういうチームをつくりたいと考えたのであります。（桑原 1968: 17-8）

・京都大学人文研（桑原）、国立民族学博物館（梅棹）の新たな運営：講座・部門制から共同研究制へ

(2) 梅棹忠夫の共同研究

- ・「コンパートメンタリズム※」の発生防止
- ・『文明の生態史観』（1967）から「日本研究」の必要性主張へ（1973）
- ・「国家デザイナー」（津野海太郎）、「プランナー」（自称）へ
→「ブレーン政治」を開いたテクノクラート

※心理的な衝突や認知的な不協和を回避するために、特定の情報や経験を他の領域と分離すること。しかし、これにより個人が矛盾した行動や信念を持つこともあり得る。また、情報の隔離が過度になると、個人の全体的な成長や健康な心理状態に影響を与える可能性もある。

3. 概要

- ・日時：2025年12月26日（金）10時～18時半（予定）
- ・場所：一般社団法人 日本建築学会 会議室301-302
〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号

4. 内容

時間	項目・タイトル	登壇者・担当者名
10:00	主催者挨拶・主旨説明	（一社）日本海洋文化総合研究所 代表理事 池ノ上 真一
	プロジェクト関係者挨拶	海ノ民話のまちプロジェクト 進行統括プロデューサー 波房 克典
	参加者自己紹介	
	新作アニメーションの放映	海ノ民話のまちプロジェクト 事業プロデューサー 吉田 沙織
第1セッション		
「海ノ民話が伝えるナラティブとは」		
10:45	主旨説明	学習院大学、武蔵野大学 非常勤講師 chair: 久保 華誉
	「寄りもの」をめぐる伝承	東北大学災害科学国際研究所 シニア研究員 speaker: 川島 秀一
	民話は文化遺産となりうる か？：奄美における景観の記憶	東京文化財研究所 無形文化遺産部部長 石村 智
	ディスカッション	
12:45	お昼休憩	
13:30	参加者自己紹介	

第2セッション

「海ノ民話を次代に伝えるために 一地域の文化財としての海ノ民話一」

13:35	主旨説明	國學院大學 教授 chair: 飯倉 義之
	船橋市の海ノ民話「雪どけ塚の白ヘビ」SNSを活用したPR方法とは?	WEBライター/船橋市観光協会 SNS担当 speaker: 伊阿弥 さおり
	文化遺産活用時代における民話と地域社会	地域遺産リサーチセンター 代表研究員 speaker: 山川 志典
	ディスカッション	
15:35	休憩	
	第3セッション	
	「海ノ民話のまちの未来」	
15:50	主旨説明	北海商科大学 教授 chair: 池ノ上 真一
	海ノ民話アニメーション制作に込める思いと夢	(一社)日本昔ばなし協会 代表理事 アニメ監督 speaker: 沼田 心之介
	まちづくりにおける 場づくり・プレイスメイキング	プレイスメイキング実践家 speaker: 伊藤 涼祐
	民話の未来 民話アニメを古生物学的視点から読み解く	(株)ジオ・ラボ 代表取締役 海ノ民話学ジャーナル編集長 speaker: 栗原 憲一
	ディスカッション	
	まとめ	
17:40	総合討議	東京文化財研究所 無形文化遺産部部長 chair: 石村 智
	海ノ民話学PJ活動報告	(一社)日本海洋文化総合研究所 事務局
18:20	ご挨拶	日本財団 廣瀬 正典 氏
18:25	写真撮影	

5. 参加者（敬称略）

■ (一社) 日本海洋文化総合研究所	
池ノ上 真一	(一社) 日本海洋文化総合研究所 代表理事 北海商科大学 教授
石村 智	(一社) 日本海洋文化総合研究所 理事 東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長
栗原 憲一	(一社) 日本海洋文化総合研究所 理事 (株) ジオ・ラボ 代表取締役
飯倉 義之	(一社) 日本海洋文化総合研究所 研究員 國學院大學 教授
久保 華誉	(一社) 日本海洋文化総合研究所 研究員 学習院大学、武蔵野大学 非常勤講師
大内 さおり	(一社) 日本海洋文化総合研究所 事務局長
石丸 優希	(一社) 日本海洋文化総合研究所 フェロー
千葉 葵	(株) JTB 総合研究所
佐藤 真生	ライター
■ゲスト	
伊阿弥 さおり	WEB ライター／(一社) 船橋市観光協会 SNS 担当
伊藤 涼祐	プレイスメイキング実践家
川島 秀一	東北大学災害科学国際研究所 シニア研究員
沼田 心之介	(一社) 日本昔ばなし協会 代表理事／アニメ監督
山川 志典	地域遺産リサーチセンター 代表研究員
■オブザーバー	
廣瀬 正典	日本財団
池坊 明日香	日本財団
波房 克典	海ノ民話のまちプロジェクト 進行統括プロデューサー
梶原 将門	海ノ民話のまちプロジェクト プロデューサー
吉田 沙織	海ノ民話のまちプロジェクト 事業プロデューサー
柴田 英知	海ノ民話のまちプロジェクト ディレクター
高田 燿	海ノ民話のまちプロジェクト ディレクター
奥田 一宏	(一社) 海洋文化創造フォーラム
丹治 富美子	作家
矢野 康明	(公財) 三千年の未来会議 事務局